

今週のトピック – 2015年10月12日

国際通貨基金（IMF）は、昨年の同時期には3.8%であった2015年のグローバル経済の成長率予想を3.1%に引き下げました。

【引き下げが示唆すること】

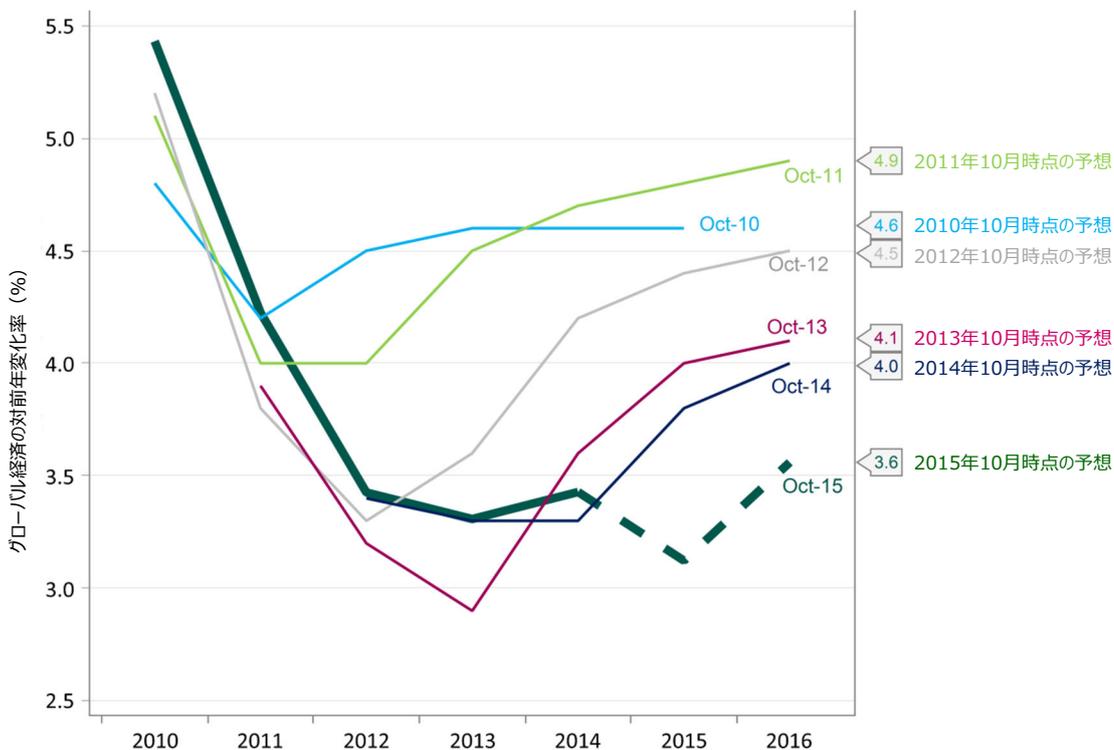
経済成長見通しの改訂は通常、経済の進展に関する新たな見解を示すというよりは、直近の経済統計や市場予想を単に反映させるものです。今週のチャートが示す通り、IMF（及びその他の経済予測機関）は2010年以降、やや過度に楽観的な見通しを発表し、その後下方修正を余儀なくされている場合が多いと言えます。ただし直近の引き下げは、グローバル経済の成長見通しに関する悲観的な見方のピークを示している可能性があります。



デビッド・ライリー

パートナー兼クレジット戦略ヘッド

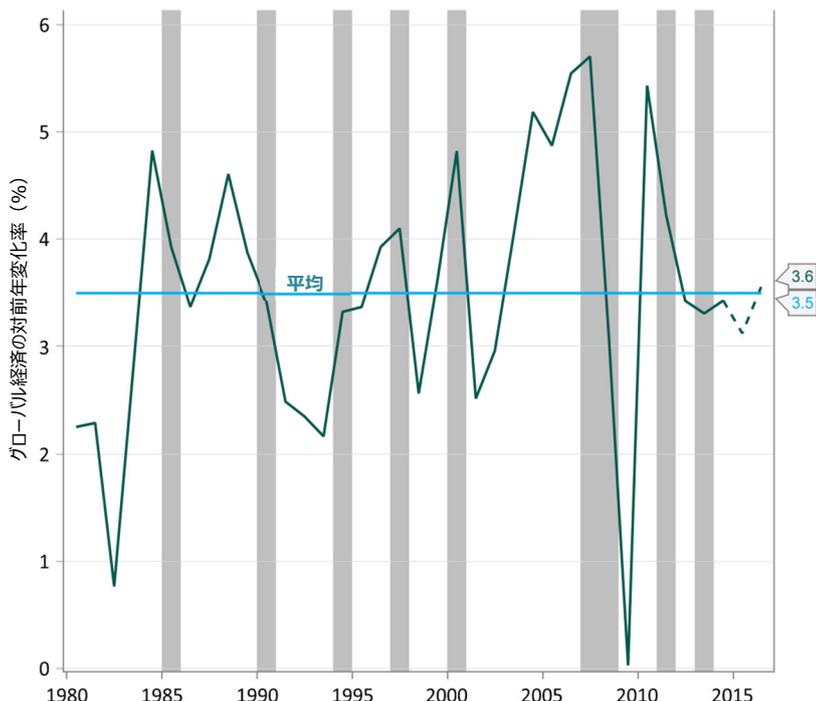
図1. IMFのグローバル経済成長率予想



注意：太い濃い緑の実線が実際の成長率を示し、点線が2015年10月7日に発表された直近のIMFの見通しに基づく予想値です。
出所：IMF World Economic Outlookによる予想、2010年10月から2015年10月

1980年からのグローバル経済の平均成長率は3.5%で、過去3%未満に落ち込んだ時期は主要経済における金融危機や景気後退の時期と重なっています（以下チャート参照）。中国の経済成長がIMFの予想（2015年は6.8%、2016年は6.5%）を下回れば、グローバル経済が余剰生産能力の増加と投資の減少を伴う景気後退に突入する可能性があります。中国経済の成長や、エマージング経済がいわゆる先進国に与える影響に関する不透明感が（先週は落ち着きが見られたものの）、ここ最近のリスク・プレミアムの上昇につながっています。今年前半の減速を経て、経済が安定化に向かっている兆候を確認するために、今後発表される中国の貿易や信用に関する統計の多くに注目が集まると見られます。

図2. 1980年以降のグローバル経済の成長率

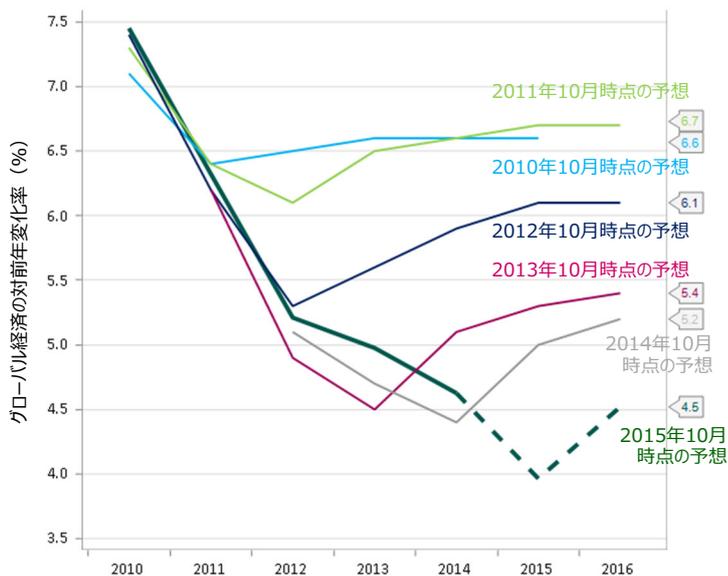


注意：グレーで網掛けされた部分は、OECD加盟国及び非OECD加盟国において最も規模が大きい6つの経済におけるリセッション期を示す。点線は予想値。
出所：Macrobond, IMF, 2015年10月

IMFが今年のグローバル経済成長率予想を引き下げ、2016年には反発が予想されているのは、ここ最近まではグローバル経済全体の4分の3、直近では約半分以上を占めるエマージング経済の見通しが影響したものです。IMFは2013年10月に、2015年のエマージング経済の成長率を5.25%と予想していたにもかかわらず、足元ではわずか4%に引き下げられています。2016年に成長率が反発するとIMFの予想が正しければ、過去5年間における(高水準からの)エマージング経済の成長減速の転換点となる可能性があります。

2016年の成長率の上昇は、主にブラジル及びロシアにおける成長見通しの改善と、資源関連投資の安定に伴う中東及びアフリカ経済の反発を反映したものです。

図3. IMFのエマージング市場の経済成長率予想



注意：太い濃い緑の実線が実際の成長率を示し、点線が2015年10月7日に発表された直近のIMFの見通しに基づく予想値です。
出所：IMF World Economic Outlookによる予想, 2010年10月から2015年10月

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
関東財務局長（金商）第 1029 号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、資料作成時点（2015年10月12日）のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社による書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途「契約締結前交付書面」等をお渡ししますので、当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。